

日本の“宝島”あまくさ

ほんど

まちづくり協議会だより

行動しなければ始まらない“人生は変えることができる”

三年ぶりに行動制限のない夏休みも終わり、天草においても猛威を振るった新型コロナウイルスの第七波は、秋風とともに少しは衰えを見せ始めたようにも思われますが、高止まりの様相を呈しています。油断は禁物、ひとりひとりが基本的な予防策を徹底していく以外に方策はないようです。

皆さんがお住まいの地域においても、様々な行事や計画等が中止または縮小されたり、徹底した感染防止対策が講じられるなどご苦勞をされていることと思います。一日も早くマスクのいらない、普通の生活に戻るよう願うばかりです。

「地産地消」から「地消地産」へ。「地域でできたものを地域で消費しよう。」ではなく、「地域で消費されているものを地域でつくろう。」という考えです。その地域で消費されているのに、その地域からの供給がないものを見つけ、生産・供給を始めること。それはすなわち、その地域において需要があると分かっている新規事業であり、成功の可能性が大きいビジネスとなります。この「地消地産」により、消費の地内循環が向上し、所得が確保できる新規事業を行うことで、定住者の増加へとつながるであろうと。これは元新潟県知事の平山郁夫さんの提唱であり、合点がいくものであると思います。

また、最近テレビなどによく登場されるので、皆さんも若宮正子さん（87歳）をご存じだと思います。定年を機にパソコンを始めて、81歳でゲームアプリを作ったことで、国連本部でスピーチ、86歳でデジタル庁のデジタル社会構想会議の構成員になられた方です。若宮さん曰く、「バットを振ったら当たっちゃったんです。人生は本当にわかりません。自分の未来にフタをしてはいけません。何歳からでも人は変わることができるから。とにかくバッターボックスに立ってみて、バットを振ったら当たるかもしれないじゃないですか。」

私はこの言葉を聞いて、地域づくりにも当てはまるのではないかと思います。諦めてはいけません。とにかくバッターボックスに立ってみましょう。バットを振ってみましょう。何もしないと何も変わりませんし、年齢も関係ありません。

この素晴らしいふるさとを次世代に繋いでゆくために、今を生きる私たちに課せられた責務ではないでしょうか。わたくしも微力ながら頑張っていきたいと思っています。

皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



本渡まちづくり協議会
会長 中川竹治

Vol. 29

令和4(2022)年10月1日号

目次

- 会長あいさつ……………p1
- 令和4年度事業計画・収支予算など……………p2~3
- 未来の大人応援プロジェクト(SBP) 卒業……………p4~6
- ふるさと応援寄附金のお礼……………p7
- 各地区振興会のPRについて……………p7
- 天草拓心高校SBP部の紹介など……………p8



掘り起こそう本渡の宝 伝えよう本渡の魅力

～ 令和4年度第1回まちづくり協議会を開催～

令和4年度の事業計画・収支予算を審議

令和4年度の「第1回本渡まちづくり協議会」を6月30日、天草市役所本庁舎で開催しました。会議には、委員など23人が出席。令和3年度の事業実績・収支決算・監査報告や、令和4年度の事業計画・収支予算などについて慎重に審議され、いずれも原案のとおり承認されました。また、本年度は任期（2年）満了に伴う役員改選が行われ、会長に中川竹治氏（再任）、副会長に鬼塚清武氏（再任）、監事に濱崎又幸氏（再任）と森暉夫氏（新任）が選任されました。

まちづくり人材育成事業
まちづくり人材育成事業は、まちづくりを推進する人材の育成を目的として研修を行うものです。過去に実施した人材育成事業を踏まえ、実践につながる見込みが大きい研修等を設定し、各地域で意欲のある方を募って実施することを検討しています。

本会では今年度も「まちづくり人材育成事業」「まちづくり研修」など、地域リーダーや担い手の育成を中心とした事業を展開するとともに、地域課題の解決に向けた「未来の大人応援プロジェクト（SBP）事業」などの取り組みを継続いたします。実施に際しまして、未だに収束の兆しが見えないコロナ禍にあつては、オンライン方式や会場を分散しての実施など、感染拡大防止の対策に注力しながら

各事業の紹介

まちづくり研修

まちづくり研修は、地域の特色を活かした取り組みを展開している団体や地域などを訪問し、それらの取り組みについて学び、意見を交換すること、気づきや発見を得て、まちづくりの参考としていただくことを目的に行う事業です。

協議会だより発行

今年度も、本会委員や地区振興会職員を対象として、まちづくりに関する先進的な取り組みに触れる研修を検討いたします。



▶ まちづくり協議会だより Vol. 28

天草拓心高校と本会が連携し、「未来の大人応援プロジェクト（SBP）事業」

「未来の大人応援プロジェクト（SBP）事業」
協議会だよりは、年2回本渡地域にお住まいの皆さんに配布しています。まちづくりに関する情報を、分かりやすくお伝えできる誌面にしたいと思っております。ご意見やご要望などありましたら、本会事務局（市まちづくり支援課）または各地区コミュニティセンターへお知らせください。

※SBP：Social Business Projectの略で、地域課題をビジネスの手法を用いて解決していくという取り組みです。
具体的には、若者（高校生）が中心となり、地元にある地域資源（人、モノ、自然、歴史、産業など）と交流し、見直し、活用して「まちづくり」や「ビジネス」を提案していく。そして、その取り組みを地域で応援し支えていくというものです。

HONDOまち婚事業

少子化対策、若者の交流機会の拡大を目指し、楠浦地区振興会と協働で取り組んでいく事業です。今後、身だしなみやコミュニケーションの向上に向けた講座や、カップリング交流会などを検討します。



本渡まちづくり協議会委員 (敬称略)

役職	氏名	備考
会長	中川 竹治	地域づくり団体
副会長	鬼塚 清武	楠浦地区振興会長
監事	濱崎 又幸	公募
〃	森 暉夫	公募 ※
委員	電子 研二	本渡南地区振興会長
〃	金澤 一紀	本渡北地区振興会長
〃	井上 数馬	亀場地区振興会長 ※
〃	平山 辰巳	柳宇土地区振興会長
〃	有江 浩三	志柿地区振興会長
〃	川崎 宏	下浦地区振興会長
〃	堀田 福男	本町地区振興会長
〃	原田 康秀	佐伊津地区振興会長
〃	中西 昭人	宮地岳地区振興会長 ※
〃	江崎 俊一	文化関係団体
〃	原田 健二	体育関係団体
〃	船田 公子	女性団体 ※
〃	山下 修平	観光関係団体 ※
〃	松本 太一	産業関係団体 ※
〃	横田 早苗	社会福祉関係団体
〃	田口 珠代	子ども育成・青年団体

※は新任の委員さまです。

※本渡まちづくり協議会についての詳細は、本会事務局（市まちづくり支援課） ☎ 6611-6111 へお尋ねください。

令和4年度 収支予算

収 入	
予算額	22,575,000円
○天草市交付金	16,833,000円
○補助金収入	1,500,000円
○参加者負担金	320,000円
○事業収入	2,358,000円
○繰越金	225,910円
○繰入金（ふるさと応援寄付金）	1,338,000円
○雑入	90円

支 出	
予算額	22,575,000円
○運営費	465,000円
○事業費	7,220,000円
・まちづくり人材育成事業	(450,000円)
・まちづくり研修事業（委員研修）	(540,000円)
・まちづくり研修事業（振興会職員研修）	(384,000円)
・まちづくり講演会	(170,000円)
・未来の大人応援プロジェクト（SBP）事業	(4,746,000円)
・HONDOまち婚	(200,000円)
・協議会だより発行事業	(730,000円)
○地区振興会活動費	14,885,000円
※10地区振興会の活動費	
○予備費	5,000円

令和3年度 収支決算

収 入	
決算額	17,595,910円
○天草市交付金	16,833,000円
○繰越金	230,897円
○事業収入	532,000円
○雑入	13円

支 出	
決算額	17,370,000円
○運営費	451,842円
○事業費	2,178,281円
・未来の大人応援プロジェクト（SBP）事業	(1,450,683円)
・協議会だより発行事業	(715,518円)
・まちづくり講演会	(12,080円)
○地区振興会活動費	12,958,900円
※10地区振興会の活動費	
○交付金返還金	1,780,977円
※コロナ禍により事業の中止が相次いだため、交付金の余剰金を返還しました。	
○次年度への繰越金	225,910円



▲他の高校生と交流



▲販売の様子



▲参加生徒の前で、焼き方実演中



▲他の生徒の焼き方についてアドバイス



▲参加した高校生全員で集合写真



▲ビデオレター撮影中

その後の実践発表交流会では、各高校のブースで取組発表や製作物の販売をしたり、ステージでダンスなどを披露したりしていました。天草拓心高校は、防災用非常食を販売し、購入にいられたお客様と交流することができました。

8月21日の午前中は、6つのワークショップが開催され、天草拓心高校は「Sの絆焼きを焼いてみよう！」に参加しました。たい焼きを販売している有限会社わらしべ様のプロの焼き方を実践で見ることができ、焼き方の勉強になりました。また、生徒代表で、天草拓心高校SBP部が参加生徒の前であまりん焼きの製作を実際に披露する時間もあり、参加した高校生に大きな印象を与えていました。

8月21日の午後は、結果発表・表彰式がありました。天草拓心高校は、最高賞の「文部科学大臣賞」を逃してしまいましたが、特別賞「皇學館大学 現代日本社会学部賞」を受賞しました。審査員から直接アドバイスをいただいたので、来年こそは「文部科学大臣賞」を取れるよう頑張っていきたいと思います。



▲審査員より授与

特別賞「皇學館大学 現代日本社会学部賞」を受賞！

製作した防災用非常食で青森県を支援

防災非常食の共同開発者である三重県立南伊勢高校南勢校舎と天草拓心高校の2校で協力をして、今年8月上旬の大津被害を受けた青森県鰺ヶ沢町と五所川原市を支援するため、青森県立鰺ヶ沢高校へ、激励のビデオメッセージを送って防災非常食200個をお送りしました。鰺ヶ沢高校に届いた防災用非常食は、受け取った高校生が自ら考え、100個は鰺ヶ沢町に寄贈し、残り100個は五所川原市で活用して欲しい。

第7回全国高校生SBP交流フェア
～学生の学生による学生のための祭典～

天草拓心高校SBP部が、「第7回全国高校生SBP交流フェア」に参加し、活動内容について発表しました。その内容について紹介します。

SBP交流フェアとは、全国からSBPの取り組みを行っている高校が、取り組みの紹介や開発商品の販売をしながら、参加者同士の情報交換やネットワークの構築のための交流を行うものです。同フェアは企画・進行・案内をSBPの取り組みを行っている高校生が担当し、地元大学生がその裏方をサポートするという、生徒や学生主体のフェアです。



▲発表の様子



▲まちづくり協議会も発表を見学



▲審査委員による結果発表と講評

発表する25団体が3グループに分かれ、7月30日・31日の2日間にかけてオンラインで取り組み内容の説明(5分)、審査委員による質疑(5分)を行いました。そして、各グループから採点上位2団体が

8月20日の決勝に進みます。各団体とも、事前に作成した4分程度の動画によるプレゼンテーションを行い、その後審査委員からの質問がありました。どの団体も工夫を凝らした発表で、自分たちの取り組みを自信をもって発表しておりました。天草拓心高校SBP部は7月30日の1番目に発表を行い、【あまりん焼き(オリジナルたい焼き)】と【防災用非常食の開発】に関して発表しました。(プロジェクトの内容は、8ページ参照)

発表動画をご覧になられた方は、QRコードからアクセスしてください。▼

8月6日には、7月30日・31日に行われたポスターセッションについて、講評と結果発表がオンラインで行われました。評価については、雅(50点以上75点未満)、輝(75点以上90点未満)、極(90点以上)の3段階で実施されました。天草拓心高校は、雅(50点以上75点未満)の評価をいただきました。残念ながら、決

SBPチャレンジアワード 本選の講評と結果発表

実践販売交流会・ワークショップ等に参加

SBPチャレンジアワード決勝や実践販売交流会・ワークショップ等が、8月20日・21日に三重県伊勢市にある皇學館大学で開催され、天草拓心高校からも参加しました。8月20日は、まずSBPチャレンジアワード決勝に進んだ6高校の発表を間近で聞きました。ここ数年のオンラインでの発表と異なり、実際に見る発表は、どの高校もダンスや演劇風など工夫を凝らし、高校生の熱意が伝わってきました。また、質疑応答でも厳しい質問にはしっかりと答えており、自分達の活動に本気で取り組んでいるのも伝わってきました。

勝進出の6団体に選ばれませんでした。審査員からは「防災用非常食のだんごが消えてしまう課題について、解決の追求してほしい。」「先輩方の活動と、自分達の活動を明確にして発表してほしい。」とのコメントをいただきました。



善意の寄附 ありがとうございます (令和4年3月～令和4年8月 本渡まちづくり協議会受領分)

〇ふるさと応援寄附金として (敬称略)

正木 良卓 (福岡県)	渋谷 健人 (兵庫県)	末本 友幸 (広島県)	赤木 京子 (東京都)
原田 良介 (愛知県)	奥山 高起 (大阪府)	金丸 和幸 (埼玉県)	大多和宣文 (静岡県)
西山 康弘 (神奈川県)	丸岡 幸江 (東京都)	岡田 遼 (東京都)	池田 倫孝 (沖縄県)
瀬戸口敬介 (熊本県)	林 篤宏 (東京都)	岩浅 明子 (東京都)	大川 浩司 (大分県)
望月 智之 (東京都)	竹森 香 (熊本県)	大野 慶 (宮城県)	末松 哲 (熊本県)
原田 慶子 (東京都)	中村 尚登 (静岡県)	吉田 桃香 (福岡県)	徳武 秀俊 (長野県)
安齋 政信 (東京都)	※匿名希望の方を含め、合計 81 名の方に寄附をいただきまして、ありがとうございます。		

～「ふるさと納税」で、天草本渡のまちづくりを応援してください。応援したいまちづくり協議会または地区振興会を指定できます。市外にお住まいのお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ご周知くださいますようよろしくお願いいたします。～

本渡地域の各振興会のホームページ(HP)があるのをご存知ですか?

本渡まちづくり協議会では、年に2回、まちづくり協議会だより(本誌)を発行しております。また、本渡地域の各振興会でも月に1回、振興会だよりを発行しております。

これらのたより以外に、各振興会の情報を知る方法があるのをご存知でしょうか。実は、本渡まちづくり協議会及び本渡地域の各振興会では、HPでも情報発信をしております。

HPは、お住まいではなくても、それぞれの振興会情報を見ることが出来る上、振興会によっては振興会だよりも載せているので、是非ご覧ください。

下記QRコードを読み取っていただくか、「〇〇地区振興会」と検索すると、HPにアクセスすることができます。



本渡南	本渡北	亀場	柙宇土	志柿
下浦	楠浦	本町	佐伊津	宮地岳
本渡まちづくり協議会	本渡まちづくり協議会でもHPを随時更新しておりますので、ご覧ください。 また、天草市まちづくりポータルサイト(A-MAP)では、天草市の各まちづくり協議会や各振興会がHPを更新した際に、新着記事として表示されます。それぞれのHPに行かなくても最新情報を知ることが出来ますので、是非訪れてみてください。			天草市まちづくりポータルサイト(A-MAP)



▲お送りした防災用非常食200個

三重の高校から防災非常食

三重県立南伊勢高校、南勢校舎・天草拓心高校・青森立鮎ヶ沢高校・鮎ヶ沢町・森皇立鮎ヶ沢高校・鮎ヶ沢町・防炎非常食の発起人である現皇學館大学(元南伊勢高校南勢校舎)学生・(一社)未来の大人応援プロジェクトの関係者全員で会議を行い、今回の取り組みを共有し、ビデオメッセージなどを使用して情報発信することで、更に防災意識の向上を促していくことを確認しました。

▲令和4年9月2日 NHK青森NEWS WEB掲載
▲令和4年9月5日 東奥日報 掲載

NHK NEWS WEB
青森 NEWS WEB

大雨被害 支援で届いた非常食 鮎ヶ沢高校の生徒が町へ寄贈



この2つの高校は記録的な大雨が降る連日の9月8日、五所川原市内で開かれた全国の地域おこしイベントに参加し、このとき鮎ヶ沢高校の生徒も交流を深めた中で非常食を送ったということです。

この非常食は、三重県の伊勢郡松阪市にある皇學館大学が、1日までに鮎ヶ沢高校に送り届けられました。

また、会場では応援の声が入ったビデオメッセージも上映されていました。

鮎ヶ沢町の町長は「高校生の皆さんの応援を町に届けて感謝しています。いただいた非常食は1人暮らしや高齢者の皆様などに届けたいです」と話していました。

鮎ヶ沢高校3年の藤原君太は「被災した方々に少しでも早く日常を取り戻してもらえよう非常食を届けて高興になってもらいたいです」と話していました。

▲令和4年9月2日 NHK青森NEWS WEB掲載
▲令和4年9月5日 東奥日報 掲載

第7回全国高校生SBP交流フェアに参加して「先輩方の思いを引き継いで」

天草拓心高校SBP部3年 金山 創太

私達天草拓心高校SBP部は、「せんだこ汁の防災用非常食」とオリジナル焼き「あまりん焼き」の開発販売を行っています。そして昨年日本一を受賞させて頂き、挑んだ今年の第7回全国高校生SBP交流フェアでは2連覇を達成することはできませんでした。しかし皇學館大学現代日本社会学部賞を受賞させて頂き、先輩方の想いを部員の仲間達と一緒に繋ぐことのできる発表ができました。また、今回は三重県で行われた交流フェアに参加させて頂き、全国のSBPに関わる高校生達と多くの交流を行うことができました。チャレンジアワード決勝では同じ志を持った高校生達の熱い取り組み発表を実際に生で観て聴くことで、とても刺激になりました。そして、ワークショップでは実際にプロのたい焼き屋さんに焼き方を教えて頂き、自分も普段やっていた焼き方を多くの人に教えることができました。そして何より、今回非常食を協同で開発している南伊勢高校と一緒に青森の豪雨災害で被災された青森県立鮎ヶ沢高校に向けて支援物資として非常食を寄贈することができ、SBPの絆を深めることができました。この交流フェアで改めて自分達の活動に必要なことを見つめ直すことができ、そして何よりかけがえのない仲間を得ることができました。

今回の交流フェアで本当に多くのことを学ばせて頂きました。このような素晴らしい機会を経験できたのも、まちづくり協議会様や市役所の方々など多くの大人の方々の支えがあったからです。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。今後は、自分が先輩達から引き継いできた思いを後輩達にしっかりと引き継ぎ、天草地域活性化のために更なる活動の発展と、もう一度、全国の舞台で日本一を目指せるように部員一丸となって頑張っていきたいと思います。

ほんどのいま

令和4年9月1日現在
(令和4.3.1との比較)

【本渡南】	男	3,737人 (-46)
	女	4,245人 (-73)
	計	7,982人 (-119)
	世帯数	3,731 (-35)
	高齢化率	34.3%
【本渡北】	男	5,468人 (-21)
	女	5,975人 (-42)
	計	11,443人 (-63)
	世帯数	5,189 (+32)
	高齢化率	24.4%
【亀場】	男	2,094人 (-8)
	女	2,349人 (-10)
	計	4,443人 (-18)
	世帯数	1,888 (+10)
	高齢化率	25.5%
【柗宇土】	男	283人 (-1)
	女	291人 (+1)
	計	574人 (0)
	世帯数	262 (-1)
	高齢化率	50.9%
【志柿】	男	1,202人 (-1)
	女	1,414人 (-5)
	計	2,616人 (-6)
	世帯数	1,196 (+2)
	高齢化率	38.0%
【下浦】	男	776人 (-9)
	女	885人 (-6)
	計	1,661人 (-15)
	世帯数	752 (0)
	高齢化率	46.0%
【楠浦】	男	1,103人 (-11)
	女	1,202人 (-4)
	計	2,305人 (-15)
	世帯数	1,003 (0)
	高齢化率	40.2%
【本町】	男	792人 (-4)
	女	810人 (-12)
	計	1,602人 (-16)
	世帯数	825 (+2)
	高齢化率	42.8%
【佐伊津】	男	1,467人 (-21)
	女	1,625人 (-3)
	計	3,092人 (-24)
	世帯数	1,437 (+2)
	高齢化率	37.7%
【宮地岳】	男	220人 (-7)
	女	234人 (-7)
	計	454人 (-14)
	世帯数	232 (-3)
	高齢化率	55.1%
【合計】	男	17,142人 (-129)
	女	19,030人 (-161)
	計	36,172人 (-290)
	世帯数	16,515 (+9)
	高齢化率	32.4%

【編集・発行】

本渡まちづくり協議会

【事務局】

天草市 地域振興部
まちづくり支援課

〒863-8631

熊本県天草市東浜町8番1号

TEL 0969-32-6661

FAX 0969-24-2744

E-mail machidukuri@city.amakusa.lg.jp



天草拓心高校SBP部の活動紹介

SBP部で取り組んでいる活動について、市長に報告に伺いました。

6月9日にSBP部の生徒6人で市長を訪問し、防災用非常食とあまりん焼（オリジナルたい焼き）の取り組み内容や販売状況について説明しました。併せて、天草市に防災用非常食を100個購入していただいたので、そのお礼を述べ、商品の受け渡しをしました。他の活動としては、全国高校生1億円プロジェクトにも関わっており、熊本県ならではのセレクトギフトを選び、業者と交渉などを行ったことについても報告しました。

市長からは、「高校生の皆さんが活躍できるような場を作っていくので、商品開発などどんどん取り組んでほしい」「実際に食べてみます」とのお言葉をいただきました。

生徒たちは、市長との懇談を通し、自分達の活動をPRする大きな機会となりました。



▲防災用非常食を受け渡し



▲市長と記念撮影

あまりん焼き

天草市の花「ハマボウ」と「イルカ」をモチーフにしているオリジナルたい焼き「あまりん焼き」を販売しております。

銀天街で毎月第3日曜日に開催されている「まちはみんなの遊園地」で今年度も販売をしました。今後も販売を予定しておりますので、皆さんぜひお越しください！

また、販売に来て欲しいイベントがございましたら、本渡まちづくり協議会事務局までご連絡ください。天草拓心高校SBP部にお繋ぎいたします。



▲7月の「まちはみんなの遊園地」での販売の様子▲

私たちの活動については、天草拓心高校ホームページ内SBPのコーナーで随時発信していきますので、ご覧ください。また、このプロジェクトには、多額の資金が必要です。ご協賛いただけると幸いです。